



群馬大学大学院
保健学研究科案内

GUNMA UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF HEALTH SCIENCES 2021

Nursing !



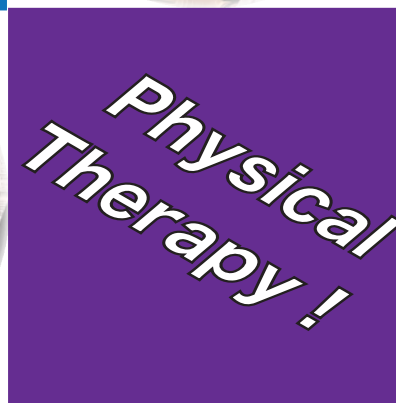
**Laboratory
Sciences!**



**Occupational
Therapy !**



**Physical
Therapy !**

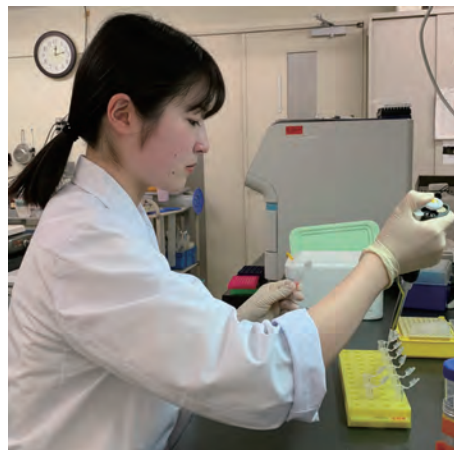


大学院生からのメッセージ

生体情報検査科学領域

博士前期課程

大学院生活は大変ですが、充実した日々を送っています



森 彩花さん

大学院進学への動機

興味があった循環器の分野をもっと詳しく勉強したかったことと、学部
のときではなかなかできないより深い研究をやってみたいと思ったから
です。また、自分の手で研究をやり遂げることで自信をつけたかったこ
ともあります。さらに、先輩方が過ごす大学院生活が魅力的であったこ
とも理由の一つとなっています。

大学院進学後の生活

大学院では授業よりも実験が中心の生活となります。自由な時間も多
いので、自分で1日の予定を立てて実験を行います。実験後には得られた
データのまとめや、自分の研究に関する論文を読んで勉強することが多
いです。予想外の結果が出てしまうことも多々ありますが、先輩方や先
生方に助けられながら日々研究を進めています。

将来の目標

将来は病院で臨床検査技師として働きたいと考えています。大学院生
活で得る知識や技能、論理的な思考力などを生かし、自信をもって働い
ていけたらと思っています。また、医療は日々進歩し続けているので、大
学院修了後においても論文を読んだり勉強会に参加したりと、日々勉強
を続けていきたいと思っています。

スケジュール

8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
	研 究			休憩	研 究 ・ 授 業					帰 宅				

博士後期課程

将来は研究と教育と両立できる大学教員を目指しています

修士課程で学んだ研究方法や考え方をより安定させ、さらに
幅広い知識やモノの見方を身に着けたいと思い進学を決めま
した。実際のところ、現在は修士の時にはできなかった実験
をやらせていただき、さらにそれぞれの工程に関してなぜそ
れを行う必要があるのかの原理にまで目を向けています。知
らないことが多すぎるため些細なことでも調べるようにし、
正しい知識を身に着け必要なものそうでないものを判断し
様々な観点から物事を考えるよう意識しています。修了後は
大学教員になりたいと思っております。なかなか成るもの
ではありませんが、成るチャンスが来た時、人に物事をわ
かりやすく伝えられるよう正しい知識と伝え方を身に着けて
いきたいと思っています。



石原 領さん

博士前期課程



Physical Therapy!



大学院進学の動機

進学した理由は何個ありますが、学部で学習した内容や知識があまり自分に身についていないと感じ、さらに深く自分の専門分野に関して学習したいと思ったことが1番の理由です。また、大学院の先輩に、論文の書き方や読み方、研究方法に関し、さらに深く学べることをお聞きし、今後の臨床に生かしていきたいと感じたことも、大学院に進んだ理由です。

大学院進学後の生活

日中は病院で勤務し、夜は大学院へ通っています。大学院の課題、研究を進めつつ、日々の臨床での疑問点の学習にもなるべく時間を割くようにしています。日々の生活は多忙な時期もありますが、ある程度決まった生活リズムを休日にも崩さず過ごすことを意識して生活しています。履修は1年の内に取り切るようにし、2年では研究にできるだけ時間を割きたいと思っています。

将来の目標

具体的な進路はまだ決まっていますが、臨床ではエビデンスに基づいた介入を実施できるセラピストになりたいと考えています。そのためには、様々な方法で情報収集し、最新の医療知識や論文等に常にアンテナを張ることが重要だと考えています。また、研究したい内容などがさらに出てくれば、博士後期課程への進学も視野に入れています。



岩村 泰輝さん

8:00 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00 20:00 21:00 22:00

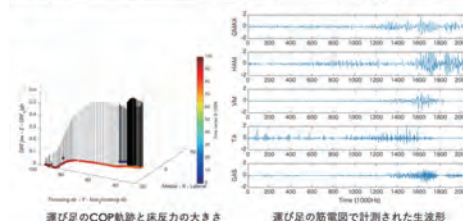
病院での勤務

授 業

帰宅

大学院修士課程において、野球の投球動作を対象とした動作解析をテーマに研究を行いました。その中で、さらに重要な疑問、明らかにしたい事項が多く見つかりました。「これらの疑問を明らかにしたい、またその方法論を学びたい」という気持ちが強く、大学院博士後期課程への進学を志望しました。

大学院終了後は、大学院で明らかにされた事実を、多くの野球選手・指導者に知ってもらい、パフォーマンス向上や障害予防に貢献したいです。また、大学院で学んだ研究方法論を生かし、臨床で出会う Clinical question の1つ1つに対し、真摯に向き合い、解決していくことのできる臨床研究者になりたいです。



海津陽一さんの 実験風景と解析データ

博士前期課程

A man in a brown sweater is holding a circular sensor array with 16 white sensors and a black central hub. A white cable is connected to the device. The background shows a laboratory setting with a desk, a laptop, and various equipment.

前述の通り、仕事と大学院生活の両立を目指した生活リズムになります。仕事から帰ってきて、そのまま大学院で授業を受け、また研究も実施する。かなり大変な生活ではありますが自分の目標のために少しずつ努力していきたいと考えます。

8:00 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00 20:00 21:00 22:00

病院での勤務

授 業

帰宅

4

専門看護師（CNS）プログラム

Certified
Nurse
Specialists!

<CNS とは？>

専門看護師〈Certified Nurse Specialist〉のことで、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して質の高い看護を提供するための専門分野の知識・技術を有する看護師のことです。

<CNS になるためには？>

看護師免許を有し、通算 5 年以上の実務経験（うち 3 年間以上は専門看護分野）、ならびに大学院博士前期課程での学修が必要です。その後、日本看護協会の認定審査を受けて合格すれば CNS の資格が取得できます。

<群馬大学でも CNS の勉強ができるの？>

本学は群馬県で唯一 CNS コースを有する教育機関であり、がん看護・慢性疾患看護・老人看護・母性看護の 4 つのコースがあります。すべてのコースは、専門看護師の発展型であるケアとキュアの融合を目指す高度実践専門看護師教育課程（38 単位）を実施しています。CNS 認定審査に合格した本学修了の CNS は、病院、診療所、在宅ケア施設等で活動すると共に、大学で講義を行うなど看護学の向上のためにも活躍しています。

がん看護

がんとともに生きる人を支えるがん看護専門看護師を育成します



がん看護学専門看護師コースは、すべてのがん看護の基本となる「緩和ケア」と群馬大学の特徴である重粒子線治療と関連させ、「放射線療法看護」をサブスペシャリティにしています。

これまでに 27 名の修了生を輩出、全員が最短で認定審査に合格し、県内外で CNS として活躍しています。実習では、本学を修了した CNS の指導を受けた後、自施設での実習でも CNS の指導が継続して受けられるようにしています。本学 CNS1 期生の認定と同時に、群馬県がん看護専門看護師連絡協議会を結成し、事例検討、キャリアアップ、情報交換だけでなく、修了生の認定審査のサポートも行っています。

また、従来からの e-learning による講義を推進するとともに、がんプロフェッショナル養成プラン採択事業として、新たにゲノム、小児・AYA・希少がん、がんライフステージ・QOL サポートなど専門家、教育リソースの少ない分野の教育を開始しました。令和元年度までに、博士前期課程 4 名、博士後期課程 2 名の学生が修了しました。

慢性疾患看護

理論と実践を融合させながらパイオニアとして活躍する慢性疾患看護師を育成します



◆本学が目指す慢性疾患看護専門看護師とは？：外来、病棟、在宅などあらゆる治療環境において、慢性疾患とともに生きる人々に対して、健康増進、疾患管理、療養支援などに関する高度な看護を行う人材です。特に理論と実践の融合を目指し、根拠のある看護を行う看護師を育成します。

◆慢性疾患看護専門看護師コースの授業内容は？：糖尿病、腎臓病、循環器疾患など、生活習慣病を中心とした慢性疾患に関する講義・演習・実習を行っています。授業科目の概要は、慢性病患者の理解に関する科目、慢性病患者のアセスメントに関する科目、慢性病患者への支援技術に関する科目、制度や体制に関する科目、治療や療養を支える治療環境整備に関する科目、実習の 5 本柱になります。

◆本学、慢性疾患看護専門看護師コースの修了生は？：病院施設での主任や教育担当、自分で起業したナース、大学教員など、医療施設や教育の場など様々な場所で生き生きと新たな道をパイオニアとして切り開きながら活躍しています。

専門看護師（CNS）プログラム

Certified
Nurse
Specialists!

老人看護

おたっしや社会をクリエイトする高齢者看護のスペシャリストを育成します



日本の高齢率は世界で最も高い水準にあります。本コースでは、サブスペシャリティを「認知症」と「在宅看護」とし、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続するための支援方法を学び、地域包括ケアシステムの中で活躍できる CNS の育成を目指しています。

実習は、病院、認知症専門外来、訪問看護ステーション、介護施設、在宅ケア機関など様々な場で行います。確かな業績と経験をもつ大学教員、老人看護 CNS、医師・薬剤師等他職種の専門家が指導にあたります。

2020 年現在、12 名の老人看護 CNS が本学から誕生しました。病院で高齢者の急性期治療や、退院支援に携わる者、施設で認知症高齢者の生活や健康を支える者、行政で介護予防などの相談業務に携わる者、訪問看護師として高齢者の安らかな最期を支える者、大学で教育に携わる者と、活躍の場と内容は様々です (bpsd.jp/ で検索)。あなたも群馬大学で高齢者に伴走する頼もしい CNS を目指しませんか！

母性看護

母性看護スペシャリストとして幅広く活躍する母性看護専門看護師を育成します



本学の母性看護 CNS コースは、母性看護のスペシャリストとして周産期のメンタルヘルスケア、ハイリスク妊婦・褥婦への高度なアセスメントと看護を得意とする CNS の育成を目指しています。本コースは、「周産期母子援助」をサブスペシャリティとし、ケアとキュアを統合して複雑で解決困難な健康問題を持つ母子とその家族への高度な看護実践ができる母性看護 CNS を育成する教育プログラムを展開します。教育内容は、①母性看護分野の専門能力を強化する科目（講義：母性看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）、②母性看護 CNS の実践能力を強化する科目（講義と演習：母性看護学特論Ⅳ・Ⅴ、母性看護学演習Ⅰ・Ⅱ）、③母性看護の現場で母性看護 CNS の実践能力を養う科目（実習：母性看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の 3 つの柱から構成されています。

本コースの修了生は、病院施設で師長や主任、教育担当、メンタルヘルス外来の立ち上げ、退院後の訪問活動など、様々な場で母性看護スペシャリストとしての役割を発揮しています。



専門職養成プログラム

高度専門医療職を目指す学生は、専門看護師（CNS）の他に、臨床研究コーディネーター（CRC）管理者養成コースや地域・大学院循環型保健学リーダーの育成プログラムを受講することができます。

臨床研究コーディネーター（CRC）管理者養成コース

臨床研究の高度な知識と実践力を持つ「臨床研究プロフェッショナル」を育成



新しい治療法や予防法を確立するための科学的根拠は、臨床試験をはじめとした臨床研究から得られます。

臨床研究の中核拠点となっている世界の研究医療機関では、臨床研究コーディネーター（CRC）やデータマネージャー（DM）と呼ばれる専門職が活躍して、臨床試験や疫学研究が進められています。質の高い研究を行うには、これら専門職のなかでも高度な知識やスキルを身につけた人材を欠かすことができません。しかし、わが国ではこれらの指導的人材を育てられる教育機関はごくわずかです。群馬大学大学院保健学研究科では、平成13年の大学院設置当初から、臨床研究専門職の指導者養成のための講義や演習を行ってきました。また、臨床研究中核病院などと連携して実践的な演習を含む「CRC 管理者養成コース」を開講しています。コース履修者には、「臨床研究プロフェッショナル（臨プロ）」の称号が与えられます。

令和2年3月までに、17名がコースを修了し、臨床研究プロフェッショナルの称号が授与されています。

地域・大学院循環型保健学リーダーの育成プログラム

地域保健学研究プロジェクトを基盤として、働きながら職場で研究ができる環境を提供します



これまでの教育を発展させ、さらなる地域活動と教育との一体化を目指した新しい大学院教育プログラム「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」を構築し、平成19年から3年間文部科学省大学院教育改革支援プログラム（大学院GP）の支援を受けました。平成22年度以降も教育プログラムとして継続しています。具体的には、地域の保健医療従事者を社会人学生として受け入れ、所属機関における研究課題を、所属機関と大学との共同で「地域保健学研究プロジェクト」として遂行します。学生はこの課程を通して、研究能力やリーダーとしての能力を体験的に修得し、大学院修了後は「地域保健学リーダー」として、地域保健医療活動の推進や、大学との協働の促進における役割を果たすことが期待されます。令和1年度までに44名の学生が本プロジェクトの研究遂行者として認定を受け地域社会で活躍しています。

指導教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員

○博士前期課程特別研究担当教員

*2022年3月31日退職予定、**2023年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、**必ず担当教員にご相談下さい。**

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Nursing !



看護学領域

基礎保健学ユニット：基礎看護学分野

○小澤 厚志・准教授；E-mail ozawaa@

- ① 医療面接における遺伝情報管理に関する研究
- ② 遺伝性疾患患者・家族のマネージメントに関する研究
- ③ 慢性疾患患者の長期管理に関する研究

○恩幣 宏美・准教授；E-mail sanaki@

- ① 人材育成教育に関する研究
- ② 患者および医療職のメンタルヘルスに関する研究
- ③ 病棟看護師による退院支援のための継続教育に関する研究

応用保健学ユニット：応用看護学分野

●大山 良雄・教授；E-mail ohyamay@

- ① 糖尿病に関する研究（予防、治療、療養指導など）
- ② 慢性疾患の栄養管理に関する研究
- ③ 慢性疾患のトータルマネージメントに関する研究

●岡 美智代・教授；E-mail michiyooka@ URL: <https://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/>

- ① 慢性病患者におけるセルフマネジメントに関する研究
- ② 慢性病患者のケアに関するエビデンスや費用対効果に関する研究
- ③ 患者教育に関する研究
- ④ 慢性病看護の専門性ならびに慢性疾患看護専門看護師の役割の研究



●金泉 志保美・教授；E-mail kanaizumi@

- ① 慢性疾患や障害をもつ小児の在宅ケアに関する研究
- ② 小児の退院支援に関する研究
- ③ 入院中の小児の日常生活や発達を支援するための研究

●近藤 浩子・教授；E-mail hirokok@

- ① ストレスマネジメントに関する研究
- ② グループアプローチに関する研究
- ③ 精神科リハビリテーションに関する研究
- ④ 精神障害をもつ人の看護に関する研究

●近藤 由香・教授；E-mail yukondo@

- ① がん患者の症状緩和に関する研究
- ② がん患者のリラクゼーション法に関する研究
- ③ がん患者や家族の緩和ケアに関する研究



指導教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員

○博士前期課程特別研究担当教員

※2022年3月31日退職予定、※2023年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、**必ず担当教員にご相談下さい。**

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Nursing !

看護学領域

応用保健学ユニット：応用看護学分野

●篠崎 博光・教授；E-mail h_shinozaki@

- ① 禁煙支援に関する研究
- ② ウィメンズ・ヘルスならびに周産期医療に関する研究
- ③ 周産期医療における人材育成に関する研究
- ④ 栄養管理・栄養支援に関する研究

●*常盤 洋子・教授；E-mail ytokiwa@

- ① 母親意識の形成・発達、子育て支援に関する研究
- ② 周産期の女性のメンタルヘルスに関する研究
- ③ 女性の満足度を高める助産ケアの開発・評価に関する研究

●*二渡 玉江・教授；E-mail futama@

- ① 手術療法を受けるがん患者・家族支援に関する研究
- ② がん患者の意思決定、適応、QOLを促進するための研究
- ③ がん看護に関わる看護職の教育・支援に関する研究

○牧野 孝俊・准教授；E-mail tmakino@

- ① 父親の育児に関する研究
- ② 慢性疾患患児のストレスに関する研究
- ③ 多職種連携による看護の有効性向上に関する研究



地域・国際保健学ユニット：地域・国際看護学分野

●大庭 志野・教授；E-mail oba@

- ① 生活習慣病のリスクに影響を及ぼす曝露要因の疫学研究
- ② 国際的な比較検討に資する集団のための尺度開発の研究
- ③ リスク因子の知識と疾病予防行動の研究

●牛久保 美津子・教授；E-mail ushi2@

- ① 在宅終末期ケアに関する研究
- ② 退院調整・地域連携に関する研究
- ③ 在宅療養支援に関する研究
- ④ 非がん療養者の緩和ケアに関する研究



指導教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員

○博士前期課程特別研究担当教員

*2022年3月31日退職予定、**2023年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、**必ず担当教員にご相談下さい。**

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Nursing !

看護学領域

地域・国際保健学ユニット：地域・国際看護学分野



●内田 陽子・教授 ; E-mail yuchida@ URL: <http://bpsd.jp/>

- ① 高齢者ケアのアウトカムを基盤とした評価システムの開発（認知症ケア、EOLC、包括的 BPSD ケアシステム[®]等）
- ② 地域住民に対する EOLC の意思決定とアウトカムを高めるケア
- ③ 老年看護学のエビデンスと理工学を融合した研究



●佐藤 由美・教授 ; E-mail satoy@

- ① 自治体における保健師の活動方法と評価に関する研究
- ② 保健師の専門能力、人材育成に関する研究
- ③ 地域におけるケアマネジメント、ケアシステム構築に関する研究

○伊東 美緒・准教授 ; E-mail mioito@ URL: <http://bpsd.jp/>

- ① 認知症症状を軽減するためのケア方法に関する研究
- ② 認知症症状を軽減するための生活環境に関する研究
- ③ 認知症症状を軽減するための研修方法の開発



指導教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員

○博士前期課程特別研究担当教員

*2022年3月31日退職予定、**2023年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、**必ず担当教員にご相談下さい。**

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Laboratory
Sciences!

生体情報検査科学領域

基礎保健学ユニット：基礎生体情報検査科学分野

●大西 浩史・教授；E-mail ohnishih@

URL: <https://biosignal.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

- ① 脳内免疫システムについての研究
- ② 細胞のストレス応答機構についての研究
- ③ 新しい生体制御システムの探索と解析



●奥石 一郎・教授；E-mail koshiishi_i@

- ① 細胞内変性オルガネラ除去機構における脂質過酸化の役割に関する研究
- ② 活性酸素種・活性窒素種・活性イオウ分子種によるホメオスタシス調節機構に関する研究
- ③ 間葉系細胞の老化に関する研究

●*安部 由美子・准教授；E-mail abe@

- ① アクチビン、インヒビンおよびアクチビン結合蛋白質の合成・分泌調節機序の解析
- ② 胎児炎症反応症候群におけるアクチビンの作用解析
- ③ DOHaD (Developmental Origins of Health and Disease) の観点に基づく絨毛膜羊膜炎で合成される増殖因子の研究

○柴田 孝之・准教授；E-mail tshibata@

- ① 抗がん剤の副作用を回避する投与前検査法の創生
- ② 機能性蛍光色素の合成と細胞イメージングへの応用
- ③ 生体成分の高感度検出法の開発
- ④ 化学修飾を施した人工核酸の設計・合成および生物学的評価



応用保健学ユニット：応用生体情報検査科学分野

●齊尾 征直・教授；E-mail saio@

URL: <https://health-pathology.health.gunma-u.ac.jp/>

- ① 細胞診断学における各種細胞所見の包括的理解のための病理・細胞形態学的研究
- ② 核構造・形態の変化に影響を及ぼす因子についての細胞生物学的研究
- ③ 病理組織の各種染色の定量性における画像解析の応用法の研究



●齋藤 貴之・教授；E-mail tsaitoh@

- ① 血液疾患・腫瘍の遺伝子多型の研究
- ② DNA 修復の研究
- ③ 支持療法の有用性の研究

URL:

<http://ketsuken-gunma.kenkyuukai.jp/special/index.asp?id=16646>



指導教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員

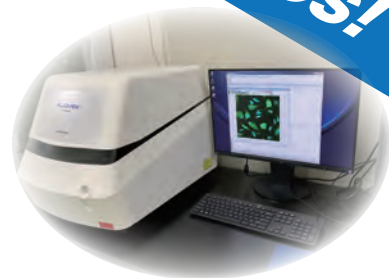
○博士前期課程特別研究担当教員

※2022年3月31日退職予定、※2023年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、**必ず担当教員にご相談下さい。**

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Laboratory
Sciences!



生体情報検査科学領域

応用保健学ユニット：応用生体情報検査科学分野

●横山 知行・教授；E-mail tyokoyama@ URL: <http://heart.health.gunma-u.ac.jp/>

- ① 肥満、遊離脂肪酸による不全心、動脈硬化進展機序の解明
- ② 遊離脂肪酸による呼吸器疾患進展機序の解明
- ③ FABP など脂肪酸代謝にかかわる因子と心疾患、動脈硬化に関する研究



●中村 和裕・教授；E-mail knakamur@

神経変性疾患の治療法開発

○松井 弘樹・准教授；E-mail hmatsui@ URL: <http://heart.health.gunma-u.ac.jp/>

- ① 脂肪酸の質的制御による疾患予防・治療へ向けた研究
- ② 心肥大、動脈硬化、肺気腫モデル動物を用いた病態解析
- ③ 生理機能検査を用いた循環器疾患のリスク解析



地域・国際保健学ユニット：地域・国際生体情報検査科学分野

●**嶋田 淳子・教授；E-mail jshimada@

- ① 細胞内寄生原虫と感染宿主応答に関する研究
- ② 抗原虫活性をもつ化合物の探索
- ③ 原虫感染における宿主因子の役割と病態形成メカニズムに関する研究

●*林 邦彦・教授；E-mail khayashi@ URL: <https://plaza.umin.ac.jp/~jnhs/>

- ① 女性の生活保健習慣と健康に関する大規模コホート研究
- ② 子宮内膜症など患者登録データベースの構築と疫学的分析
- ③ 医薬品の使用実態や有効性・安全性を評価する薬剤疫学研究



○豊村 暁・准教授；E-mail toyomura@

- ① 脳波（EEG）および磁気共鳴画像法（MRI）を用いたヒトの脳に関する神経科学研究
- ② 吃音の神経メカニズムに関する研究
- ③ 発話や上肢、下肢の運動制御に関する研究



指導教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員

○博士前期課程特別研究担当教員

*2022年3月31日退職予定、**2023年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、**必ず担当教員にご相談下さい。**

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Physical
Therapy!

リハビリテーション学領域（理学療法学）

基礎保健学ユニット：基礎リハビリテーション学分野

●臼田 滋・教授；E-mail susuda@

- ① 機能的制限に対する理学療法に関する研究
- ② 障害構造の分析に関する研究
- ③ 臨床的評価指標の開発に関する研究
- ④ 神経系障害に対する理学療法の効果に関する研究

●久田 剛志・教授；E-mail hisadat@

- ① 呼気ガス分析による炎症性呼吸器疾患の病態解析と呼吸リハビリテーションの効果の評価に関する研究
- ② 呼吸器疾患に対するリハビリテーションの効果についての生理学的評価
- ③ 炎症性呼吸器疾患に対する $\omega 3$ 系脂肪酸由来脂質メディエーターの作用に関する研究

●山路 雄彦・准教授；E-mail tyamaji@

- ① 身体各所から発生する生体信号を解析し、臨床応用する研究
- ② 基本的動作を人間工学的に解明する研究
- ③ スポーツ活動などの研究
- ④ 地域包括ケアシステムに関する研究



応用保健学ユニット：応用リハビリテーション学分野

●**坂本 雅昭・教授；E-mail msaka@

- ① スポーツ障害・外傷の発生機序の分析と予防に関する研究
- ② スポーツ障害・外傷に対する理学療法に関する研究
- ③ 発育期、中高年期における体力特性に関する研究
- ④ 運動器疾患に対する理学療法の効果に関する研究



地域・国際保健学ユニット：地域・国際リハビリテーション学分野

●山上 徹也・准教授；E-mail yamagami@

URL: <https://brainreha.jimdofree.com/>

- ① 認知症高齢者のリハビリテーションに関する研究
- ② 介護予防（集団・個別介入、評価、地域作り）に関する研究
- ③ 地域におけるリハビリテーション（訪問、通所、施設）に関する研究
- ④ 物・人的環境と対象者の生活機能発揮に関する研究



指導教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員

○博士前期課程特別研究担当教員

*2022年3月31日退職予定、**2023年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。

出願に当たっては、**必ず担当教員にご相談下さい。**

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Occupational
Therapy!

リハビリテーション学領域（作業療法学）

基礎保健学ユニット：基礎リハビリテーション学分野



●李 範爽・教授；E-mail leebumsuk@

- ① 加速度計や圧センサー、Actiwatch などを用いた上肢機能の運動学的解析
- ② 中枢神経障害に対する作業療法の評価、効果検証
- ③ 視空間認知機能障害に対する作業療法の評価、効果検証
- ④ Actiwatch などを用いた身体活動量や生活リズム、睡眠の定量的評価

●三井 真一・教授；E-mail smitsui@

URL: <https://mitsuilab.health.gunma-u.ac.jp/>

- ① 異性間の絆による精神神経疾患の予防・回復効果に関する生物学的研究
- ② 精神発達障害に関わる脳内プロテアーゼの機能に関する研究
- ③ 家族の絆がリハビリテーションに与える効果に関する生物学的研究



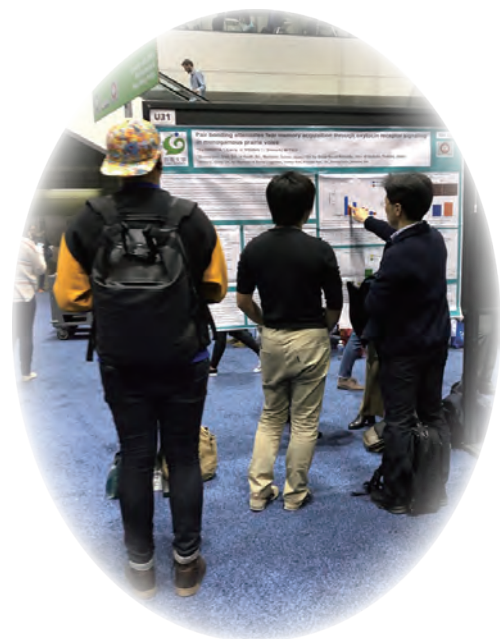
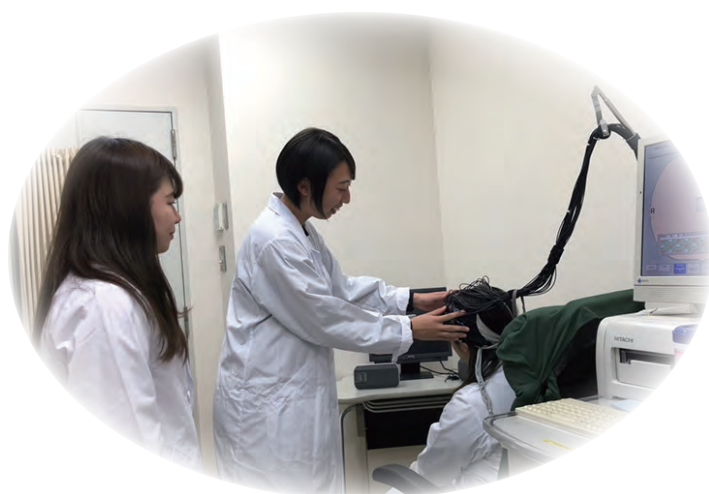
●**山崎 恒夫・教授；E-mail tsuneoy@

- ① アルツハイマー病発症に関する基礎医学的研究
- ② 認知症患者の神経心理学的評価に関する研究

地域・国際保健学ユニット：地域・国際リハビリテーション学分野

●菊地 千一郎・教授；E-mail senichiro@

近赤外線スペクトロスコピーを用いた健常人及び精神疾患における認知機能研究



@Gundai_OT



gundai_ot





〒371-8511 群馬県前橋市昭和町 3-39-22

TEL 027-220-7111（代表）

※ 特別研究担当教員のプロフィールや研究内容の詳細は
群馬大学大学院保健学研究科・医学部保健学科のホームページ
(<http://www.health.gunma-u.ac.jp>) をご覧ください。



群馬大学大学院保健学研究科では、Twitter による情報発信も行っています。

 **@HealthGu**

